

# 北見武道通信

令和6年2月15日 00678号

編集者:佐藤 寿春

北見市幸町8丁目4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

URL <http://www.kitamibudokan.org/>

[satou.toshiharu@navy.plala.or.jp](mailto:satou.toshiharu@navy.plala.or.jp)



## ニュースレター【事務局情報】

### 第35回北見柔友会杯争奪柔道大会開催!

2月10日(土)市武道館で行われた本大会は、第31回オホーツク管内少年少女柔道大会と第52回北見地区少年少女柔道大会を兼ねる歴史ある大会です。コロナ禍で4年ぶりの開催となりますが、会場にはオホーツク管内より個人戦95名(幼児・小学生女子低学年・小学生男子低学年・小学生女子高学年・小学生男子高学年・中学生女子・中学生男子)と団体戦6チーム(先鋒~大将迄9人制)が日頃の練習の成果を競い合いました。〈佐藤〉

### 武道館スタッフ

### 愛子の作品展

### シリーズ

武道館スタッフ織田愛子展 ※お題は「鬼たいじ」  
北見市武道館に展示



## 連載 中国「老子」の思想 二十章 愚者の心

知識を万能視する考えを断ち切れれば、悩みはなくなる。礼に適(かな)うといい、適わぬといっても、\*どれだけの違いがあるろうか。善といい、悪といっても、どれだけの差があるだろうか。ひとがするから自分もそうする。これではドウドウめぐりで、悩みはいつまでも尽きない。人々は浮き浮きと楽しげだ。あたかも酒宴の席にあるかのよう、花見に興じているかのよう。だが、わたしの心は、静まりかえって動かない。まだ笑いを知らぬ赤子のよう。何をしようという気も起こらぬ。人々はみな意欲に満ち溢れている。だがわたしだけはボンヤリと、すべてを忘れはてている。わたしの心は愚者の心だ。何ひとつ分別がつかぬ。人々はみな明敏だが、わたしだけは暗愚だ。人々は決断力に富むが、わたしには何ひとつ分明なものはない。定めなくたゆたう海、あてどなく吹く風、それがわたしの姿である。人々はみな有能だが、わたしだけは木偶(でく)に等しい。わたしだけが人々から離れて、母なる自然のふところに抱かれようとする。原文:絶學無憂。唯之與阿、相去幾何。善之與惡、相去何若。人之所畏、不可不畏。荒兮其未央哉。衆人熙熙、如享太牢、如春登臺。我獨怕兮其未兆、如嬰兒之未孩。乘乘兮若無所歸。衆人皆有餘。而我獨若遺。我愚人之心也哉。沌沌兮。俗人昭昭。我獨若昏。俗人察察。我獨悶悶。忽兮若海、漂兮若無所止。衆人皆有以。而我獨頑似鄙。我獨異於人、而貴食母。 〈礼に適うといい...\*〉 原文「唯と阿とは」。「唯」はハイというていねいな返事、「阿」はアア、ウンといった粗野な返事、いずれも擬声語である。 二十一章に続く